

イズヴェスニャック湖周辺の沿岸帯の調査 及び人間活動の自然海岸への影響評価

- 1 自治体名： 沿海地方
- 2 発表者名： ユリヤ・バキロワ (Yuliya Bakirova)
(アルセーニエフ市青少年自然研究所)
- 3 活動名： イズヴェスニャック湖周辺の沿岸帯の調査
及び人間活動の自然海岸への影響評価
- 4 活動期間： 2011-2012年
- 5 活動場所： オリギンスキー地区、イズヴェスニャック湖
- 6 活動人数： 4名
- 7 活動をはじめた経緯
この地域特有の自然を維持するために、保全対策を考える必要がある。
- 8 発表要旨

2011年に始まった調査は現在も続いています。調査対象となっているのは日本海に面している沿海地方のオリギンスキー地区の一部です。

海岸に確認されたごみは大きく二種類に分類できます。海から流れ着いたごみと人が捨てたごみです。イズヴェスニャック入江では、ごみが収集されていません。海岸利用後、出たごみをどのように処分すればいいでしょうか。利用者のキャンプがお互いに近くに位置しているため、故意でなくても、隣の人のライフスタイルを見ることができません。皆さんがどのように家庭のごみを処分しているかということに私たちは興味を持ち、特別な注意を払って、観察しました。それぞれの人のやり方が違います。ある人はビニル袋に貯めたごみをヴェシヨリイ・ヤル町の廃棄物集積所に出します。ある人は、近くにある森に捨てます。翌日に、その森で自分たちが散歩することになるとも考えずに。しかし、一番よく見られるのは、ごみをただ単に砂の中に埋めることです。雨や嵐のとき、そのゴミが表に出てきます。

年々、人間の活動によって、環境が悪化していることを見ると、人間は自然の王様ではなくて、自然の子供であることを皆さんに思い出してほしいです。自然の中にいるとき、母親の家にいると同じようにふるまうべきです。まず、家庭のごみに関して言うことです。基本的には、貯まったごみを近くの廃棄物集積所まで持っていくのが決して難しいことはありません。なぜならば、三日に一度、キャンプの人が町まで食料の買い付けに行っているからです。ハエを増やさないために、生ごみを土に埋めなければ

なりません。そうすることによって、このような見苦しい景色を見るものがなくなります。森の中でキノコ狩りをする際、キノコを発見する回数より、悪臭がひどくて、腐ったごみの山を見ることの方が多くなることもなくなります。このようなことで気分が悪くすることがなくなるから、自然の中で過ごす時間がさらに楽しくなるでしょう。

私たちのお気に入りの場所に来るたびに、周りの景色の美しさに感動が絶えません。ここでは、顕花植物の多様性が見られます。はじめに、このような小さな自然の奇跡を写真に収めていましたが、その後、その花についてもっと詳しく知りたくになりました。植物分類図鑑を利用して、すでに知っているように思われた植物について、多くの新しく、面白い情報が分かりました。

私たちにとって、鳥、魚、カニ等の動物を観察することが楽しいひと時です。毎年、餌を食べにくるボラを観察しています。岸に近いところでボラの群れが水上からのプランクトンを食べています。さらに、青鷺が戻ってくる日が私たちにとって、お祭りのような出来事です。戻ってきたということは、無事に越冬したという証拠です。岩に住んでいたツバメのひな鳥が飛ぶ練習をしているのも観察したことがあります。アザラシの観察がとても興味深いものです。とても好奇心が強い動物です。私たちは海岸を歩くと、近くの海岸沿いを泳いでいます。しかし、海岸の利用者が少ないときだけのことです。利用が増えると、アザラシがその場を去っていきます。

もっとも忘れられない出来事が2011年の夏に起きました。私たちのボートに二頭のシロイルカが近づいてきました。親子と分かりました。この出会いについて私は短編小説を書きました。出会った動物たちとまた会える日が来ると期待して、夏に取った写真を冬の間しばしば見えています。

動物についてもっと知識を得るために、動物分類図鑑を利用しました。私たちを取り巻く環境についての詳細を知ることがとても有意義で、興味深いものです。

一目で分かるように、調査対象の入江までの道路図を作成し、3つの道路があることが明らかになりました。調査中、顕花植物や動物等の種類を同定しました。14科の15種の植物を同定しました。泉の周辺を綺麗に清掃しました。利用者が捨てているごみを分類しました。海岸利用者から出る家庭ごみの処理方法を調べました。この調査には、23名の方が協力してくれました。利用者に配布する目的で、休養地域での過ごし方についての注意書きを作成しました。

自然に対して敬意の念を持つことがとても重要です。私たちの基本的なニーズ（食べ物、水、空気）を満たすからというわけだけではありません。自然には、独自の法則、ルールに従って、存在し、発展する権利があります。私たち、一人ひとりが自然界の一部であることを認識すれば、自然を構成している一つ一つの生命体の保全の重要性を十分理解できるでしょう。